

孤高の画家・高島野十郎

三鷹市美術ギャラリーで没後30年展

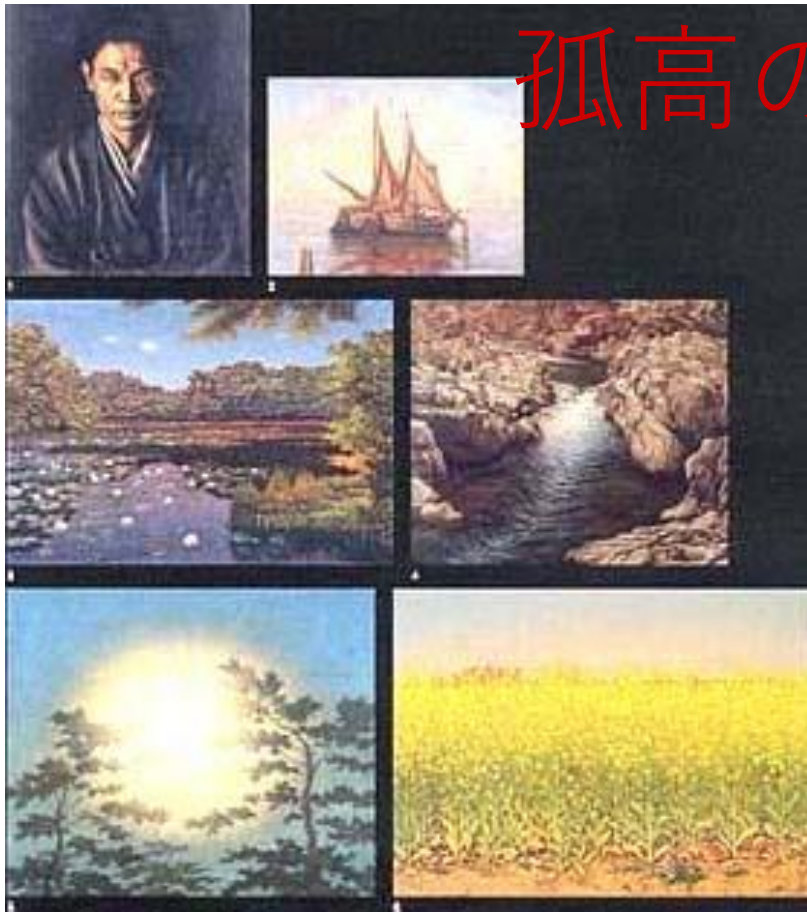
同人雑誌の友人に、三鷹で高島野十郎展をやっているよ、といわれて出かけた。増尾に電気も水道もガスもないアトリエを建て、絵を描き続け、昭和50年に野田の特別養護老人ホームで亡くなった。柏市にゆかりの深い画家であり、平成12年に郷土作家展として柏市民ギャラリーに、69点を展覧している。昨年12月に、生地に近い福岡県立美術館で、没後30年の回顧展を開催、百点が公開され、三鷹にも6月10日―7月17日の巡回となった。孤高の画家、というの郷土作家展のタイトルだが、「写真にかけた孤獨の画境」の方がいい。

増尾にアトリエを建て、パラダイスだよ

本名・弥寿（やじゅ）、明治23年生まれ。福岡の酒造業の四男。東京帝国大学農学部の水産学科を主席で卒業、恩賜の銀時計を辞退したという。以後、独学で絵を描く。三鷹での百点を見る。生前、ついに無名で過ぎた画家に光を当てた人が福岡県立美術館にいた。おかげで、その足跡を心おきなくたどれる。克明な写真、目に見えるものすべてに等しく眼差しを注ぐ。それが「慈悲」だという。「慈悲としての写真」とされる。増尾のアトリエに井戸を掘った。水道水は飲まない。訪ねた姪に、ここはパラダイスだといったという。ここで月と太陽と蠟燭の炎を描いた。柏の郷土画家である。

中村順二美術館で→

柏市所蔵美術品展



没後30年 高島野十郎展

三鷹市美術ギャラリーのパンフレットから

- ㊤㊦絡子(らくす)をかけたる自画像(大正9年)
 - ㊤イタリアの海 キオッジア漁村(昭和5-8年)
 - ㊤㊦すいれんの池(昭和24年) ㊤流(昭和32年)
 - ㊤㊦太陽(昭和50年) ㊤菜の花(昭和40年)
- なお、パンフレットには、満月(昭和38年)、柿(昭和37年)、雨 法隆寺塔(昭和40年)、蠟燭(昭和9年)が掲載されている。

柏市教育委員会では7月19日―30日、大津が丘の中村順二美術館で、市が所蔵している、高島野十郎10点、塩水流功(しおずる・いさお)4点、芹沢銈介4点の美術品展を開いた。三鷹の野十郎展に続いて開かれているが、関係はない。会話絵画と言われる塩水流の作品が懐かしい。

末広クラブ逆井漫歩95 平成18年8月